

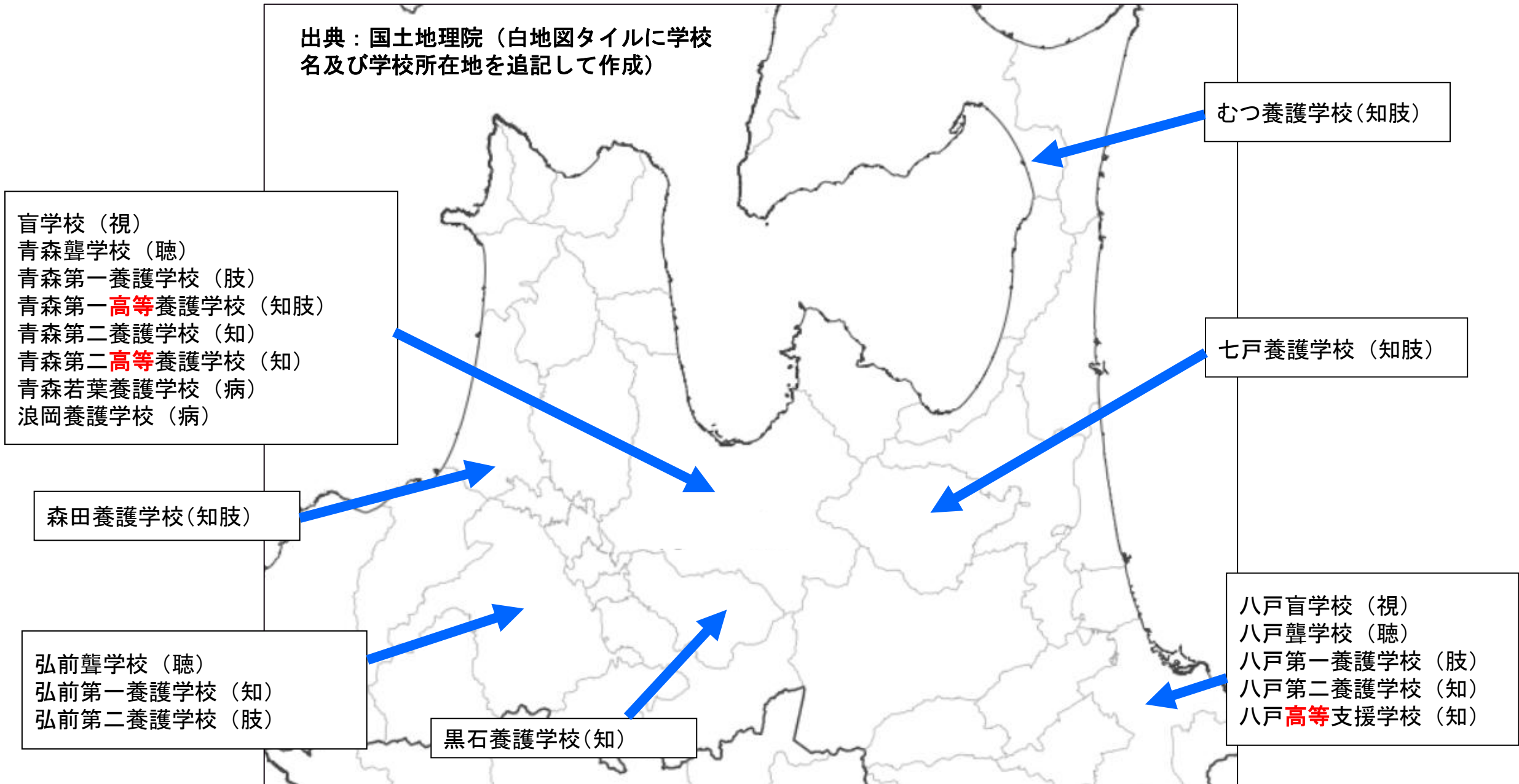
資料 2

県立特別支援学校
幼児児童生徒数の推移等について

青森県教育庁学校教育課

県立特別支援学校の配置（20校）

出典：国土地理院（白地図タイルに学校名及び学校所在地を追記して作成）



幼児児童生徒数の推移及び今後の見込み（全障がい種計）

（１）県立特別支援学校幼児児童生徒数（全障がい種）

令和８年５月１日現在、幼児・児童・生徒数は１，７１１人。

令和７年度に引き続き、今年度も前年度を上回り、直近の１０年間で最多。

【幼稚部】減少傾向で推移。

【小学部】平成２９年度から増加傾向。今年度も前年度を上回り、直近の１０年間で最多。

【中学部】令和４年度から増加傾向。今年度も前年度を上回り、直近の１０年間で最多。

【高等部】令和２年度から減少傾向。今年度も前年度を下回った。

障がい種	学部別	実績										見込		
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
全障がい種計	幼	★ 14	13	13	★ 14	★ 14	13	11	★ 14	7	4	8	8	9
	小	458	472	504	540	568	587	611	620	630	★ 644	660	660	672
	中	382	373	347	340	322	332	356	386	412	★ 423	413	409	429
	小中計	840	845	851	880	890	919	967	1,006	1,042	1,067	1,073	1,069	1,101
	高	751	761	★ 777	755	722	683	666	645	643	640	691	718	721
	計	1,605	1,619	1,641	1,649	1,626	1,615	1,644	1,665	1,692	★ 1,711	1,772	1,795	1,831

※★は過去10年間（H29～R8）におけるピーク年度の幼児、児童生徒数を示す

R４に推計した際は1,806人
当時の推計より下回っているが、増加傾向

幼児児童生徒数の推移及び今後の見込み（視覚障がい特別支援学校）

(2) 各障がい種別の幼児児童生徒数

① 視覚障がいを対象とする特別支援学校

中学部は増加したが、小学部と高等部が減少し、全学部では前年度を下回った。
令和2年度から緩やかな減少傾向。

障がい種	学部別	実績										見込		
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
視覚障がい	幼	0	0	1	1	1	1	1	★ 2	1	1	1	1	1
	小	9	9	★ 13	11	9	9	10	10	5	3	4	2	2
	中	4	7	5	7	5	6	3	2	7	★ 8	7	3	2
	小中計	13	16	18	18	14	15	13	12	12	11	11	5	4
	高	★ 18	16	17	12	16	11	13	11	11	6	7	8	10
	計	31	32	★ 36	31	31	27	27	25	24	18	19	14	15

※★は過去10年間(H29～R8)におけるピーク年度の幼児、児童生徒数を示す

幼児児童生徒数の推移及び今後の見込み（聴覚障がい特別支援学校）

（２）各障がい種別の幼児児童生徒数

②聴覚障がいを対象とする特別支援学校

幼稚部は減少したが、中学部が増加し、全学部では前年度を上回った。
令和４年度から緩やかな減少傾向。

障がい種	学部別	実績										見込		
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
聴覚障がい	幼	★ 14	13	12	13	13	12	10	12	6	3	7	7	8
	小	16	18	16	19	19	19	21	20	★ 26	★ 26	27	29	30
	中	★ 12	★ 12	★ 12	9	10	8	6	7	6	10	10	12	11
	小中計	28	30	28	28	29	27	27	27	32	36	37	41	41
	高	★ 14	12	8	10	10	10	5	6	3	3	5	6	10
	計	★ 56	55	48	51	52	49	42	45	41	42	49	54	59

※★は過去10年間（H29～R8）におけるピーク年度の幼児、児童生徒数を示す

幼児児童生徒数の推移及び今後の見込み（知的障がい特別支援学校）

(2) 各障がい種別の幼児児童生徒数

③知的障がいを対象とする特別支援学校

小学部は平成29年度、中学部は令和4年度から増加傾向で、今年度は直近の10年間で最多。

高等部は令和元年度まで増加傾向であったが、令和2年度から減少傾向。
全学部では平成30年度から増加傾向で、最多だった前年度を超えて今年度も直近の10年間で最多。

障がい種	学部別	実績										見込		
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
知的障がい	小	322	346	379	407	436	463	486	490	504	★ 531	549	550	568
	中	292	284	259	262	246	258	273	316	340	★ 347	340	344	367
	小中計	614	630	638	669	682	721	759	806	844	878	889	894	935
	高	596	620	★ 651	630	596	577	574	557	562	558	611	640	644
	計	1,210	1,250	1,289	1,299	1,278	1,298	1,333	1,363	1,406	★ 1,436	1,500	1,534	1,579

※★は過去10年間(H29～R8)におけるピーク年度の幼児、児童生徒数を示す

幼児児童生徒数の推移及び今後の見込み（肢体不自由特別支援学校）

（２）各障がい種別の幼児児童生徒数

④肢体不自由を対象とする特別支援学校

これまで全学部とも減少傾向であり、今年度は小学部が８名減少した。

障がい種	学部別	実績										見込		
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
肢体不自由	小	★ 85	73	71	76	81	76	76	73	69	61	59	57	52
	中	★ 54	48	52	40	38	33	46	38	37	38	38	37	37
	小中計		139	123	116	119	109	122	111	106	99	97	94	89
	高	★ 83	74	60	62	55	50	42	38	35	41	40	35	33
	計	★ 222	195	183	178	174	159	164	149	141	140	137	129	122

※★は過去10年間（H29～R8）におけるピーク年度の幼児、児童生徒数を示す

幼児児童生徒数の推移及び今後の見込み（病弱特別支援学校）

（２）各障がい種別の幼児児童生徒数

⑤病弱を対象とする特別支援学校

今年度は小学部が３名、中学部が２名減少した。全学部では緩やかな減少傾向。

障がい種	学部別	実績										見込		
		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
病弱	小	26	26	25	★ 27	23	20	18	★ 27	26	23	21	22	20
	中	20	22	19	22	23	27	★ 28	23	22	20	18	13	12
	小中計	46	48	44	49	46	47	46	50	48	43	39	35	32
	高	40	39	41	41	★ 45	35	32	33	32	32	28	29	24
	計	86	87	85	90	★ 91	82	78	83	80	75	67	64	56

※★は過去10年間（H29～R8）におけるピーク年度の幼児、児童生徒数を示す

1 本県特別支援学校における児童生徒数等の現状・課題

- ・近年、知的障がい特別支援学校児童生徒数の増加が続き、令和8年度以降も増加が見込まれる。
- ・それ以外の障がい種別特別支援学校は児童生徒数が横ばい又は減少傾向。
- ・特に青森第二養護学校の在籍数が急増し、不足教室数が増加する見込み。
- ・一方青森市内の肢体不自由特別支援学校の青森第一養護学校、知的障がいと肢体不自由併置の青森第一高等養護学校は在籍数が減少傾向、教室数にも余裕。

2 学びの環境の改善に向けた課題

○青森第二養護学校

市内唯一の知的障がい小・中学部設置校で東青地区児童生徒が集中する環境にあり、増築・普通教室への転用等の対応がこれ以上困難な状況
市内東部に立地しており西部児童生徒の通学時間が長い

○青森第一養護学校

青森第一養護学校（小中学部設置）、
青森第一高等養護学校（高等部設置）
で設置場所が離れており、卒業後の進路まで見通した指導の充実のため、特P連から青森第一養護学校への高等部設置の要望

○青森第一高等養護学校

H27から生徒数が半減、空き教室が増加しており、他の知的障がい特別支援学校の学びの場に活用し、校舎に児童生徒数が増えることで多人数での教育活動の実践が可能に

「学びの環境の改善」「校舎の有効活用」「児童生徒の通学の利便性の確保」の観点から、当面の対応として「分教室の設置」を検討（希望する児童生徒が利用）

- ① 青森第二養護学校小中学部の「分教室」を青森第一高等養護学校内に設置
- ② 青森第一高等養護学校の「分教室」を青森第一養護学校内に設置
（あすなろ療育福祉センター入所者以外生徒への分教室利用範囲の拡充）

3 アンケート意向確認調査を踏まえた分教室の設置

アンケート意向確認調査結果（令和 8 年度からの分教室の利用希望）

- ①青森第二養護学校（小 1 ～中 2） → 小 1 3 名、中 8 名の計 2 1 名（対象者 1 7 4 名中）
- ②青森第一高等養護学校進学希望者（中 3） → 2 名（対象者 2 名中）
※中 1 ・ 2 の R 9 以降の利用 → 8 名（対象者 8 名中）
- ③青森第一高等護学校（高 1 ～高 2） → 0 名（対象者 2 名中）

青森第二養護学校は一定数ニーズがあり、未就学児等在校生以外の保護者の意向によっては更に希望者が増える可能性。青森第一養護学校は中学部全員が希望。
→よってアンケート結果等を踏まえ、令和 8 年度から当面の間、2 つの分教室を設置する。

（参考） 分教室設置イメージ図

	青森第二養護学校	青森第一高等養護学校	青森第一養護学校
令和 7 年度	知的 小・中・高	知的/肢体不自由 高	肢体不自由 小・中
令和 8 年度	小・中の希望者		肢体不自由高の希望者
		分教室	分教室
令和 9 年度	令和 9 年度以降の対応は、令和 8 年度に開催する青森県特別支援教育在り方検討会議において方向性を検討する。 ただし、令和 8 年度から分教室で学ぶ児童生徒の場所（校舎）は変わらない見込み。		